



【会報の巻頭言】

「新しい出発に当たって」

一般社団法人日本食品包装協会
理事長 石谷孝佑

昨年から続けてきましたホームページのリニューアルと、それに伴う会報の電子化、コンテンツの充実などに一定の目途がつきましたので、新年度から会報の電子化を始めてさせていただきます。「会報はホームページから見て下さい」と言っても、そう簡単に会員の皆様に見て頂けるものではないと思っていますので、これからも「利用しやすく」「見やすく」「役に立つ」工夫をしていきたいと考えています。これまでの冊子体は、ピンポイントでしかご利用いただけなかったのに対して、電子版になると、コピーしたり、転送したりするのが容易になり、社内の多くの方々に見て頂くことができるようになります。是非この方向で、有効にご活用いただきたいと思います。

「食品包装」という業界分野は、「食品」と「食品用包材」と「食品用包装機械」というヘテロな業界から成り立っています。「食品産業」は、「食品製造業」と「食品輸送業」と「外食産業」から成り立っています。食品産業の業界規模は70～80兆円程度で推移していますが、「食品包装産業」は「食品を包装する」という主役は包装資材と考え、常に包装資材の工場出荷額のみで話をされ、その規模は4兆円程度とされていますが、「食品包装産業」という塊で捉えると、食品産業の約1割、7～8兆円になるのではないかと考えられます。そこには食品包装機械が含まれ、包装食品の物流が含まれ、商品として販売されるまでの付加価値額が含まれ、それらの関連業界が加わることになります。この点においては、1990年代に検討された『食品包装学体系』をもう一度ひも解いてみる必要があるかもしれません。

商品を包装する対象物には様々なものがありますが、食品が包装できる知識と技術があれば、ほぼ全てのものを包装できると言われています。逆に言えば、食品包装はそれだけ多様で難しく、人の健康と安全まで含めた高度な技術と配慮を必要とする分野であるとも言えます。

東日本大震災の時に「包装資材がなければ食品の生産も輸送もできない」事態に直面し、食品包装の果たす役割の重要性を再認識させられましたが、これを契機に「食品包装」を一つの重要な業界と捉え直し、食品包装業界に貢献していくことが当協会の重要な使命であり、会員の皆様のご支援があつて当協会が成り立っていることを考え、これからの協会の事業展開を考えていきたいと考えています。

「包装」は、日常生活に不可欠な非常に重要な分野であるのに、大学で殆ど教えないという不思議な分野でもあります。それだけ「業際的であり、学際的である」ということかもしれません。当協会は、そのような問題を補うべく、新人教育にも、関連書籍の出版にも力を入れていきたいと考えておりますので、何卒宜しくご支援のほど、お願い致します。